

平成18年度調査計画（案）

調査項目			実施機関		
			林	道	環
陸域生態系	エゾシカ	過去のエゾシカ採食圧把握			○
		エゾシカの植生への影響把握			○
		季節移動把握			○
		防鹿柵の効果把握			○
		密度操作実験予備調査等			○
	外来種	外来植物			○
		外来動物（アライグマ）			○
		その他外来生物			○
	希少種	シマフクロウ			○
		海ワシ類			○
	植物	希少植物群落			○
		植生調査			○
		シレットコスミレ			○
	利用圧調査	利用圧によるインパクト			○
		利用状況			○
その他、（国、道だけでなく町や各研究者等が実施していく様々な調査・研究を含む）					
	ヒグマ	ヒグマGPS首輪調査（知床財団）			—
	菌類	菌類調査（五十嵐委員）			—
陸水域生態系	河川工作物	サケ科魚類状況調査		○	
		河川工作物の影響評価	○	○	
	生態系	海域から陸域への栄養還元			○
その他、（国、道だけでなく町や各研究者等が実施していく様々な調査・研究を含む）					
海域生態系	インベントリ調査	海の生物相調査			○
	海鳥類	海鳥類調査			○
	海棲哺乳類	海棲哺乳類調査		○	
	魚介類	漁業資源調査		○	
	海洋環境	海洋環境調査			○
		沿岸海洋観測			○
その他、（国、道だけでなく町や各研究者等が実施していく様々な調査・研究を含む）					
知床アトラス	データベースの整理及びGIS等による統合				○
	モニタリング指標の開発				○

調査項目		実施機関		平成18年度		
		林	道	調査計画(案)	内容	
陸域生態系	エゾシカ	過去のエゾシカ採食圧把握		○	年輪分析によるエゾシカの森林植生への影響調査(補足調査)	中小径木の年輪分析による過去の若齢木へのシカの影響の把握
		エゾシカの植生への影響把握		○	遠音別岳植生・エゾシカ採食圧調査	遠音別岳地区の植生及びエゾシカ採食痕をモニタリングする。過去の調査区を復元するとともに新規調査区も設置する
				○	知床半島沿岸域希少植物群落補足調査	2005年度の海岸域における在来植物群落の分布調査の補足調査を実施する
		季節移動把握		○	エゾシカ季節移動調査	標識個体のラジオテレメトリー調査による季節移動の把握
		防鹿柵の効果把握		○	知床岬植生回復試験調査区モニタリング調査	3ヶ所の植生回復試験区と対照区のモニタリング
				○	ウトロ市街地鹿柵効果把握	防鹿柵の効果検討調査
	密度操作実験予備調査等		○	知床岬シカ密度操作実験の予備調査	岬での捕獲手法の検討。新規モニタリング試験区の検討。航空センサスと自然死個体分析。	
			○	ルサ・相泊地区シカ密度操作実験の予備調査	エゾシカ個体群モニタリング手法の検討(羅臼町ライトセンサスの活用は可能か)、植生調査の手法に関する検討、捕獲方法に関する検討	
			○	岩尾別・真鯉地区シカ密度操作実験の予備調査	岩尾別、真鯉地区シカ密度操作実験の予備調査 植生モニタリング手法の検討	
	外来種	外来植物		○	アメリカオニアザミの駆除及び効果モニタリング(継続)	知床岬周辺でのアメリカオニアザミの駆除作業。過去に駆除を実施した箇所の経過観察。アメリカオニアザミの分布状況調査。駆除作業の検証。
		外来動物(アライグマ)		○	アライグマの侵入状況調査	アライグマを対象に、侵入状況調査、被害状況調査を行うとともに、状況に併じて駆除を実施する。
		その他外来生物		○	知床連山登山道等におけるセイヨウオオマルハナバチの侵入状況調査 道路沿いにおけるジキタリス等外来植物の除去	セイヨウオオマルハナバチ、ジキタリス等の遺産地域内での分布状況把握及び簡易な駆除
	希少種	シマフクロウ		○	繁殖個体数の確認、標識調査	シマフクロウの生息状況、繁殖状況を調査し、幼鳥に標識を装着
				○	海ワシ類越冬個体数調査	海ワシ類の生息個体数をカウントし、生息状況、生息分布をモニタリング(全道での調査)
		海ワシ類		○	海ワシ類餌資源環境実態把握調査	海ワシ類のえさ資源に関する分布・環境を把握(全道での調査)
				○	オオワシ渡りルート解明調査	北海道におけるオオワシの渡りルート解明(全道での調査)
				○	オジロワシ繁殖状況調査	北海道におけるオジロワシの繁殖・営巣状況、孵化状況(全道での調査)
	植物	希少植物群落		○	海岸域在来植物群落分布調査	2005年度の海岸域における在来植物群落の分布調査の補足調査を実施
		植生調査		○	羅臼湖周辺の植生調査	知床半島の羅臼湖周辺の植物相の調査を行うとともに、北海道大学総合博物館所蔵の知床半島における植物標本の整理を行い、知床半島における植物種のインベントリを作成する。
				○	シレットコスミレの分布	シレットコスミレの分布域を把握し、過去の調査と比較検討を行う。
	○	シレットコスミレの遺伝的多様性	知床連山及び遠音別岳周辺のシレットコスミレの個体群からサンプルを採取し、シレットコスミレの遺伝的多様性を把握			
利用圧調査	利用圧によるインパクト		○	登山道の荒廃地点調査	知床連山の登山道荒廃地点の確認調査	
	利用状況		○	利用適正化検討調査	知床沼利用状況や、夜間動物観察状況、アンケート・聞き取り等により、利用者の動向や利用による自然環境への影響を把握	
その他、(国、道だけでなく町や各研究者等が実施していく様々な調査・研究を含む)						
陸水域生態系	河川工作物	サケ科魚類状況調査		○	主要25河川におけるサケ科魚類状況調査	サケ科魚類の遡上量推定と河川周辺環境の把握、河川別オシロコマの分布現況
		河川工作物の影響評価		○	河川工作物の影響評価に資するための調査(河川環境、土砂動態)	WGの意見を踏まえた河川工作物の影響評価に資するための調査(河川環境、土砂動態)
	生態系	海域から陸域への栄養還元		○	サケ科魚類による栄養塩輸送に関する調査	サケ科魚類、ヒグマ等の陸上動物及び周辺植生の安定同位体分析や、サケ科魚類の利用状況を通じた、海域から陸域生態系への物質輸送の程度を把握する調査
その他、(国、道だけでなく町や各研究者等が実施していく様々な調査・研究を含む)						
海域生態系	インベントリ調査	海の生物相調査		○	知床沿岸の浅海域生物相の把握	知床半島の浅海域を対象とした魚類、無脊椎動物および海藻・海草類の採集調査
				○	浅海域藻場調査	知床半島羅臼側においては、知床半島のコンブ場の現状と特徴の基礎情報を得る。(全国129箇所にて実施予定)
				○	水中ロボット(ROV)を用いた生物群集のモニタリング	ROVを用いてプランクトン、魚類などを観察する。
	海鳥類	海鳥類調査		○	モニタリングサイト1000海鳥調査	知床半島の海鳥(ケイマフリ、ウミネコ、オオセグロカモメ、ウミウ)生息数、繁殖個体数のモニタリング
	海棲哺乳類	海棲哺乳類調査		○	知床海棲哺乳類調査	ラインセンサスによる個体数及び分布域把握及び漁業被害の聞き取り調査
	魚介類	漁業資源調査		○	主要な魚介類の漁獲統計調査・資源量調査・生息環境調査等の実施	※漁協、水試等により様々な調査を実施中
海洋環境	海洋環境調査		○	衛星画像解析による海洋環境モニタリング	知床を中心として、根室海峡からオホーツク海、そして太平洋の一部に至るまでの水温、流氷分布及びクロロフィルaの濃度を衛星リモートセンシングにより定期的に把握し、海洋環境及び基礎生産の変動を把握	
	沿岸海洋観測		○	水温・塩分・クロロフィルなど海洋観測ブイ設置	様々な海洋生物の動態に影響する環境変動を把握するための基礎となる環境要因データを収集	
その他、(国、道だけでなく町や各研究者等が実施していく様々な調査・研究を含む)						
知床アトラス	データベースの整理及びGIS等による統合		○	データベースの拡充	前年度に作成された植生図、自然環境、社会情報等の追加情報や前年度までの各種モニタリング等調査結果を追加し、必要に応じて各種計画策定に必要な図面を提供する。	
	モニタリング指標の開発		○	長期的モニタリング項目の検討	遺産地域の自然環境を適切に管理する上で重要な指標や水準を開発する。	

北海道実施調査計画

1. 平成18年度知床サケ科魚類状況調査

- ・知床の全河川（44河川）についてサケ科魚類遡上状況調査を実施する計画であり、本年度は、平成17年度に実施した19河川を除く、残り25河川を調査する予定。

[調査内容]

ア. サケ科魚類（サクラマス・カラフトマスス、シロザケ）調査

- ・資源量（遡上量）の推定

手法：遡上中の親魚数、産卵床数

- ・河川の周辺環境

手法：ダム等による遡上・産卵への影響状況、遡上・降河を阻害する要因の確認

イ. 知床の海と川を往来する典型種の調査)

- ・河川別オシロコマの分布現況（魚種別の生息数（概数））

手法：生息密度、分布域（上限域）の確認

* 評価に当たっては専門家の意見を聞いて行う

2. 平成18年度知床海棲ほ乳類調査

- ・知床の海棲ほ乳類については、平成17年度に10月から2月に亘る調査を実施しており、平成18年度は海棲ほ乳類のモニタリングとして継続した調査を行う。
- ・また、引き続き漁業被害の聞き取り調査も行う

[調査内容]

- ・定期定点調査を行うことにより、個体数及び分布域についてのデータを収集する。

手法：ラインセンサス（船・車）

- ・漁業被害調査

手法：オホーツク海側漁業被害（聞き取り調査）

：羅臼側漁業被害（聞き取り調査）

：混獲状況調査（聞き取り調査）

各委員の調査計画
(事務局に連絡のあったもの)

○五十嵐恒夫委員

菌類（キノコ）の調査

多くのキノコは、地中や樹体内に菌糸を張り巡らし、年に数日（種類によっては数十年に一度）子実体を発生するという特性から、時期を違え、できるだけ多くの日数観察する必要がある。知床での今回の調査は、2004から始め、今年は3年目となり、フィールドでの主要な調査は本年で終了する予定である。

調査地域：オシンコシン、ウトロ高原、ウトロ東、幌別自然観察教育林、羅臼岳山麓（ウトロ側、羅臼側）、岩尾別、岩尾別台地、1338林班、硫黄山、羅臼湖など。

調査方法：林内歩道を利用し、周辺に発生するキノコの写真撮影、特徴やサイズの記録、発生場所の記録などを行う。

調査担当：五十嵐恒夫ほか2名。